



一人来て 二人で帰るうれしさよ



弥陀の念佛 道づれにして

加藤裕久さん宅 お内仏額より

あたたかい関係をつくるために
～人ととのつながりのなかで～



9月29日は、小学校運動会で学校が代休でした。鈴鹿組寺族青年会では以前も好評だった子どもから大人までふれあい、学び、そして大切なことを身につけていこうと、コミュニケーション(ワークショップ)を開催してきました。この代休を当てて10時より12時まで津市教育委員会人権教育課の峯田康一さんを迎えて集いを持ちました。安東町の西光寺ご院さん、門徒推進員さんも参加下さり、手遊び・ジャンケンゲーム・ボール投げ・カードを使っての話し合い、聞き合うことの大切さ、相手に正しく想いを伝えるのにはどうすればいいかなどなど、始終にぎやかに、楽しく、うちとける時間を過ごしました。

夏休み出来なかった「お寺にあつまろー」を学校代休となった午後から開催。色紙遊び、運動場での遊び、鐘つき、夕餉の支度。みんなで「お夕事」のおつとめ、夕食はそれぞれで「手巻きずし」を頂きました。みなさーん、ようこそようこそ、仏縁に遇っていただきありがとうございました。



お彼岸、無量寿会例会が持たれました。岡田さん調声により、「正信偈」お勤めのあと、丸橋会長より温まるごあいさつ。季節柄というので芋饅頭にてお茶タイム、住職より秋の話題「あかとんぼ」「夕やけこやけ」を皆さんで歌い、人生回顧、いのちの往く世界、浄土への帰趣(きすう)を味わいました。また、今年も会長さんよりご提案、「色紙に想いを」それぞれ考えて書きました。最後に保地さんより、体のたいそう、頭のたいそう、手遊びやなぞなぞを楽しみながら、皆さん笑いの時間を持たせていただきました。



先日ご近所のご高齢者をお招きして、我が家狭い庭にて、お酒を頂きました。軽い扱いに何時もぼやいていました。料理は女房の手作りでおもてなしです。焼き肉、芋サラダ、きゅうりの漬物、先ずはビールで乾杯し、後は焼酎の氷割りを頂きました。その宴席中に私の詩抄を一部紹介したところ「君にエールを」に眼が行き、「この詩抄を呉れないか」と真顔で言されました。その理由は、現在本州にて一人暮らしをしている息子に、現在の親父の気持ちを言葉として、これを二日間くらいかけて自筆で書き写して渡したい、力づけたいとのことでした。詩抄を四つに折りたたんで懐に仕舞い込む様が私には何故か心に感じるところがありました。お酒が入っていたこともあり、今流行のゴーストライターの言葉が笑い話の中に出来ましたが、今まで聞いたことがない彼の家族の一端を知りました。それにしても、親は幾つになつても子どもの幸せを願わない人はいないものだなあと私自身に置き換えてつくづく考えさせられました。

北海道 大島義勝さんお手紙

葬儀が様変わり

平成二十六年九月十日（水）

今日ありて 今宵の名月 拝しか
時雨月の句

君にエール（YELL）を

とにかくやってみろ
たかが一つや二つのつまずきに
泣くのはよそう
まだまだ若い
まだ若いじゃないか
失う物は何もない
若い日は、二度とないぞ
歩け歩け、道は広いぞ
遣ってみろ、色んな道があるぞ
俺もそうだった
泣くな悩むな
人々何も無かった
あの時に帰ろう
人生は、失敗の連続だぞ
一度や二度ではないぞ
その一步が大事
忘れるな、その一步だと
その一步を思い出せ

■ ほら、光が見えたじやないか
自分が思うほど
悪くはないぞ
人生は僕いものよ
その一步が大事
忘れるな、その一步だと
その一步を思い出せ

■ 最近の事であるが、新聞のコラム欄を見て愕然とした記事が載っていました。「葬儀の形式についてですが、最近は少子高齢化と経済的な面から、家族葬なる葬儀が主流になってきたとのことが、ここ十数年言われてきました。それが朝刊のコラムに載る「直葬」には度肝を抜かれました。それに追い打ちをかけるように「散骨」、お墓を持たない・お墓を継ぐ者が絶えたので墓の撤去、私はこの矢継早な記事はショックの何物でもありませんでした。」この記事は、私には余りに大きな問題を突き詰められたよう直ぐにはこたえができません。

北海道 大島義勝さんより

先日朝刊のコラム欄を読んで愕然とする記事が載っていました。「葬儀の形式についてですが、最近は少子高齢化と経済的な面から、家族葬なる葬儀が主流になってきたとのことが、ここ十数年言われてきました。それが朝刊のコラムに載る「直葬」には度肝を抜かれました。それに追い打ちをかけるように「散骨」、お墓を持たない・お墓を継ぐ者が絶えたので墓の撤去、私はこの矢継早な記事はショックの何物でもありませんでした。」この記事は、私には余りに大きな問題を突き詰められたよう直ぐにはこたえができません。



落合登代子

